ドローンによる効率的な追肥

ZEN-NOH

〇これまで夏場の追肥作業は重労働であったが、ドローンによる追肥が可能となり、省力化がはかれるとともに安価な肥料を活用できる。
〇積載量の大きいドローンや専用肥料を活用することでより作業の効率化がはかれる。
〇本田防除の時期と追肥の時期が重ならないため、ドローンの固定費を下げることができる。

ドローンを使用した施肥体系の例とコスト試算

施肥体系	全量基肥	基肥＋ドローン追肥	
	被覆入り一発	基肥（化成）	追肥×2回（尿素）
成分	20-10-10	14-14-14	46-0-0
施用量（kg/10a）	40kg	29kg	4.5kg×2回
窒素施肥量（kg-N/10a）	8kg	4kg	2kg×2回
コスト	被覆肥料入りのため高コスト	省力・効率的なドローンによる尿素のみの追肥により低コスト（約2～3割減）	

ドローンの固定費、修繕費等および施肥労力は除く

留意点

（1）追肥が必要な夏場は高温多湿であるため、肥料が吸湿し機械が詰まらないように注意する必要があります。雨上がりなど、湿度が高い状態での散布は避けましょう。専用の肥料を使用することも検討してください。
（2）肥料散布に適応したドローンの機種を選択し、事前に散布量の調整等を行ってください。